福井市総合ボランティアセンター運営方針

福井市市民生活部
男女参画･市民協働推進室

平成 28 年開設

目　次

Ⅰ．総合ボランティアセンターの必要性について ---------- P2

Ⅱ．総合ボランティアセンターの基本的な考え方 ---------- P3

（1）福井の歴史を踏まえた協働のまちづくりの中核施設

（2）福祉や地域との連携を軸にした
あらゆるボランティア活動のプラットホーム施設

（3）専門スタッフによる総合的なボランティアコーディネート施設

（4）福井駅西口中央地区市街地再開発事業の推進施設

Ⅲ．総合ボランティアセンターの機能 ---------- P5

（1）基本的活動方針

（2）施　設　概　要

（3）運　営　体　制

（4）基本的活動方針と主な事業内容

Ⅳ．資料

■ボランティアに対する市民の意識 ---------- P10

Ⅰ． 総合ボランティアセンターの必要性について

古来、日本の共同体は血縁・地縁を基盤とする村落からなり、また、福井は古くから浄土真宗の講などの活動が活発で、共同作業や付き合いを通して強い共同体意識を育んでいます。福井市は、戦災、震災、水害、雪害と、幾たびの災禍に見舞われましたが、時代が変わっても長年培われてきた共同体意識の元、その都度住民が力を合わせ乗りこえ、市民憲章運動に象徴される助け合い、支えあいの精神を基調として郷土の繁栄、成長に結実させてきました。

近年、社会の成熟に伴い、市民の価値観、ライフスタイルの多様化や心の豊かさ、生きがいなどへの志向の強まりとともに、行政にも暮らしに密着した多岐にわたる市民ニーズや課題へのきめ細かな対応が求められています。

地方公共体を取り巻く環境も激しく変化しており、特に少子化による人口減少が進行し、社会や経済のあり方が大きく変貌しておりその影響が様々な形で生じています。本市においても、地域の行事の参加率や自治会加入率が低下するなど地域のつながりの希薄化が進んでおり、さらには、コミュニティ機能の低下が指摘され、もはや行政だけで幅広く公共を担うことが難しい時代が訪れています。

これを解決するには、市民と行政がともに責任を担う協働のまちづくりを目指すことが重要です。そのひとつの方策として、ボランティア活動の促進があります。ボランティア活動が一層盛んになることで、市民活動の裾野が広がり、地域コミュニティの活動や多様な市民組織の活動の活性化につながります。

福井市では、人口減少社会の中で、ボランティア活動を通じた協働の輪を広げながら、持続的な活力ある地域社会の創造を目指す施設として、市民のボランティアへの関心を高め、応援を求める人と応援したい人を的確にコーディネートしていくとともに、多くの市民が気軽に訪れることができる総合ボランティアセンターを設置し、センターを中心としたボランティアの裾野を広げるための運営方針を明らかにします。

※ボランティアとは　「ボランティア」とは、「自分自身の、自由な意志によって、人のために、地域のために、社会のために“すすんで”行動する人」を指し、その活動は、一人ひとりの自由と信念が尊重され、誰もが安心して暮らせる社会やまちを創ることに、自分の考えで、金銭的な見返りを目的とせずに関わっていくものといえます。

Ⅱ． 総合ボランティアセンターの基本的な考え方

（1） 福井の歴史を踏まえた協働のまちづくりの中核施設

総合ボランティアセンター（以下「センター」という。）は、福井の歩みを受け止め、踏まえながら、第六次福井市総合計画で示された協働のまちづくりを推進します。

〔社　会〕

■価値観・ライフスタイルの多様化に伴うボランティア意欲の高まり
■コミュニティ力低下に伴うボランティアニーズの高まり
■少子高齢社会の到来に伴うボランティアニーズの高まり
■阪神淡路大震災、東日本大震災など大災害に伴うボランティアニーズの高まり

■公共ニーズの多様化・複雑化
■ボランティアニーズの多様化
■ボランティア意識の高まり

〔福井市〕

■真宗王国・講から生まれた共同体意識
■戦災、震災、雪害等からの復興
■市民憲章のすすんでの精神
■ボランティア福井の普及
■うらがまちづくり事業による地域づくり
■男女共同参画都市宣言
■ナホトカ号重油流失事故、福井豪雨からの復興

■サービスを供給する市側の限界
■市民の生きがいづくりや自己実現を支援

第六次福井市総合計画　基本目標　みんなでつくる住みよいまち

政策 21
ともに責任を担う協働のまちをつくる。

新たな公共活動の担い手を育成・支援する。

総合ボランティアセンター

センターは、協働のまちづくりの中核施設として、

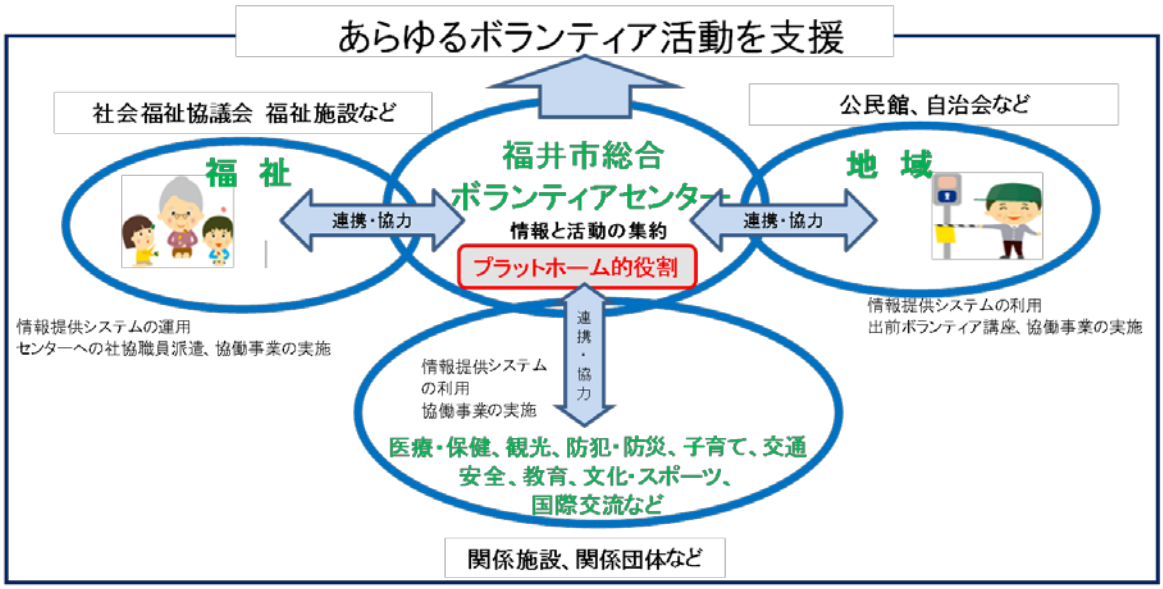
人口減少社会の中で、ボランティア活動を通じた協働の輪を広げながら、持続的な活力ある地域社会の創造を目指す。

（2）福祉や地域との連携を軸にした、あらゆるボランティア活動のプラットホーム施設

福井のボランティア活動は、長く福祉分野を中心にして培われてきました。また、地域においては、公民館や自治会などにより公民館活動やまちづくりの中で活発に取り組まれてきました。

一方、今日ボランティア活動の分野は、福祉やまちづくりに留まらず、医療・保健、観光、防災・防犯、子育て支援、交通安全、教育、文化スポーツ、国際交流など多岐に渡っています。

センターは、福祉や地域での現状と成果を十分踏まえつつ、情報提供システムの運用、協働事業の実施、ボランティアポイント制度の運用検討等を通じて、あらゆる分野と連携・協力を進め、ボランティア活動のプラットホームとしての役割を担います。



（3）専門スタッフによる総合的なボランティアコーディネート施設

専門的な知識とスキルを持ったボランティアコーディネーターを積極的に養成・配置し、経験、意欲等を総合的に考慮しながら、ボランティアを「したい側」と「求める側」をつなぎます。

また、企業、団体、学校、地域等と連携し、ボランティアプログラムの積極的な企画提案を行うなど、様々な場で活動が広がるよう、一歩踏み込んだコーディネートを進めます。

（4） 福井駅西口中央地区市街地再開発事業の推進施設

県都の窓口・福井駅西口の再開発事業の一翼を担う施設であり、老若男女を問わず参加しやすいなど、交通の結節点として地の利を生かした事業を推進します。

また、屋根つき広場など再開発ビルを生かした事業、福井駅周辺の清掃美化など中心市街地を基点とする事業を積極的に推進します。

Ⅲ．総合ボランティアセンターの機能について

■目標

あらゆるボランティアに総合的に対応するとともに、ボランティア活動の裾野を広げる

市民のボランティアへの関心と理解を深め、その思いを実際の活動につなげる

ボランティア活動を通じて様々な課題を解決していくことにより、市民の自治力を高める

■基本的活動方針

活動のきっかけづくり
活動の場・出番づくり
活動しやすい環境づくり
活動の仲間づくり・喜びづくり
応援を求めやすい態勢づくり
市の施策への参画づくり

※「ボランティア福井」について

これまで福祉ボランティアの普及や関係する活動は、昭和 60 年度から2年間、厚生省の主導のもとに、「ボランティア福井」として事業を展開してきました。今後は福祉の視点にとどまらず、複雑化していく社会的課題の解決や市民の活力向上、住みよいまちづくりに繋がる取組みが重要であると考えます。

そのために、これまでの「ボランティア福井」の考えを拡大し、**「ボランティア福井」から「協働のまちづくり」へ**新たな発想や手法によるボランティア活動の支援体制を確立していきます。

（1） 基本的活動方針

1. 活動のきっかけづくり

① 情報収集および提供

② 研修・講座

2. 活動の場・出番づくり

① ニーズに応じたボランティアコーディネーションの実施

② ボランティア活動の場づくり

3. 活動しやすい環境づくり

① ボランティア活動条件の向上

② ボランティアに関する調査・研究

③ ボランティア活動者の育成

④ ボランティア活動者へのミーティングの場、作業スペース等の提供

⑤ 関連施設、関係団体との連携

⑥ 地域との連携

4. 活動の仲間づくり・喜びづくり

① 仲間・ネットワークづくり

② ボランティア活動の評価

5. 応援を求めやすい態勢づくり

① ボランティアの応援を求める側の立場にたった相談

6. 市の施策への参画づくり

① 市の事業とボランティア活動の推進

② JR福井駅再開発ビルを活用したボランティア事業の推進

③ 中心市街地におけるボランティア事業の推進

※センターで取り扱うボランティアの範囲

6つの基本機能に基づく具体的事業に取り組みます。

なお、センターは、下記に対しては、ボランティアであっても取り扱いをしません。

①個人や家族が自らできる活動

②民間企業が専ら営利のために行う活動

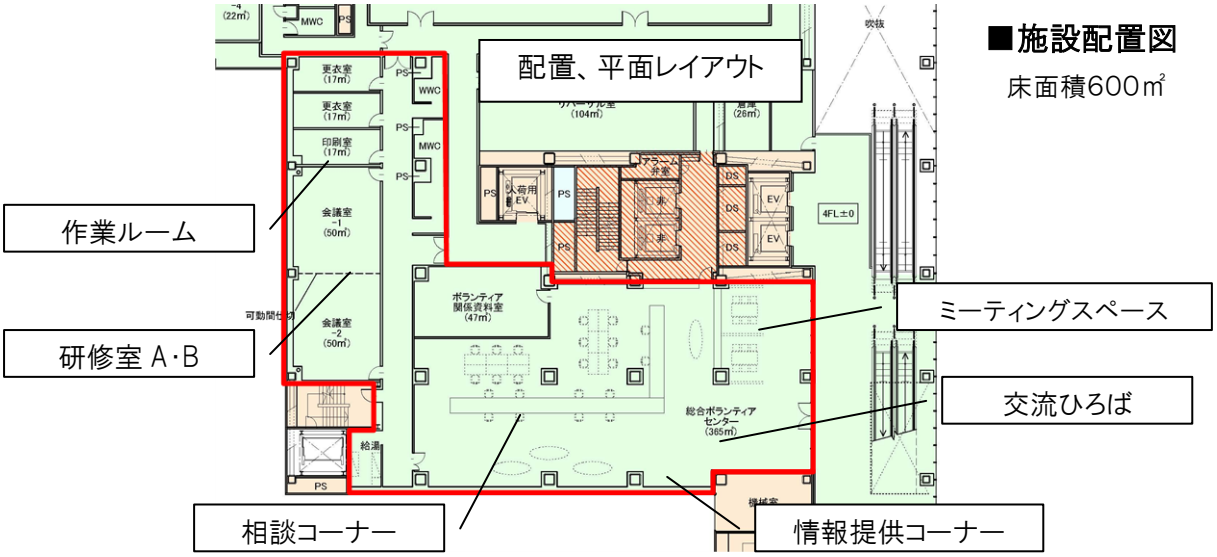
③宗教団体等による特定の教義や価値観を広めるための活動

④政党政治団体による政治活動や公私の選挙に関わる活動

⑤有償ボランティア活動

（2） 施 設 概 要

■施設配置図



■施設鳥瞰図

■研修室イメージ

◇ 施 設 概 要

〈相談コーナー〉　事務所に併設し、ボランティアの各種相談や需給調整

〈情報提供コーナー〉　ボランティア募集情報や関連セミナー、イベント情報の掲示、各種チラシの配置、ボランティア情報検索ができるパソコンの設置

〈ミーティングスペース〉ボランティアグループ等の小ミーティング
ボランティア活動の事前打ち合せ等に利用

〈交流ひろば〉　ボランティアに関するパネル展や各種イベント等の利用

〈研修室 A･B〉　ボランティアに関する研修会やセミナー等、ボランティアグループの会議等での利用

〈作業ルーム〉　ボランティアに関するチラシ等の印刷や整理に利用

（3） 運営体制

■組織と要員の配置

・設置、運営者　福井市（将来的には、外部委託も想定）
・（仮称）福井市総合ボランティアセンター運営委員会の設置
・総合ボランティアセンター事務局体制案 （配置職員　　10名程度）

センター長
事務局長
庶務総務係
ボランティアコーディネーター
・チーフコーディネーター
・ボランティア市民活動推進担当
（ボランティア研修、事業企画、PR、市のボランティア事業推進、他機関との連携など）
・ボランティア情報・相談担当
（福祉、まちづくり、災害など）

※共通業務として、協働事業の企画、ニーズの開拓、情報提供システムの運用など
※広報誌の発行、企画事業の運営などの業務に、積極的にボランティアの参画を図る

■関連施設・関係団体との連携・協力

・運営や事業の推進では、市社協、市NPO支援センター、公民館、学校、県、福祉施設など関連施設・関係団体との連携を図っていきます。

■開所形態

開所時間、休所日
開所時間 ：平日　　午前9時～午後9時
土曜、日曜　午前9時～午後5時
休所日 ：月曜、祝日（土曜、日曜除く）、年末年始

（4） 活動方針と主な事業内容

活動方針ごとに施策の方針を掲げ、事業を実施していきます。

活動方針	施 策 の 方 針	主 な 事 業 内 容
1 活動のきっかけづくり	1 情報収集及び提供	○ 情報の収集、収集体制の構築 ○ メールマガジン、HPなど情報の発信、提供 ○ ボランティア情報提供システムの活用 ○ ボランティア講座の実施
	2 研修・講座	
2 活動の場・出番づくり	1 ニーズに応じたコーディネート	○ 相談窓口の充実と的確な需給調整の推進 ○ ボランティアコーディネーターの配置 ○ ボランティアコーディネーターの養成 ○ 需要の掘り起こし
	2 ボランティア活動の場づくり	
3 活動しやすい環境づくり	1 ボランティア活動条件の向上	○ 参加しやすい条件整備 ○ ボランティア活動機材、貸出（印刷機など） ○ ボランティアグループへの助成 ○ ボランティアに関する実態把握、調査研究 ○ ボランティアの人材、団体の育成 ○ 活動保険の加入促進及び助成 ○ 他のボランティア関連施設との連携 ○ 研修室、ミーティングスペース、作業ルーム等の提供 ○ 関係団体と連携づくり （市民活動団体、社会福祉施設） ○ 地域でのボランティア活動の支援 （出前ボランティア講座など）
	2 調査・研究	
	3 活動者の育成	
	4 ミーティングの場、作業スペース等の提供	
	5 関連施設、関係団体との連携	
	6 地域との連携	
4 活動の仲間づくり・喜びづくり	1 仲間・ネットワークづくり	○ 活動者同士のネットワークづくり ○ 活動者交流会の開催
	2 活動の評価	
5 応援を求めやすい態勢づくり	1 ボランティアの応援を求める側の立場にたった相談	○ ボランティアの応援を求めやすくする環境づくり ○ 各分野の専門家、専門機関との連携 （大阪ボランティアセンターなど）
6 市の施策への参画づくり	1 市の事業とボランティアの協働の推進	○市の事業にボランティアの参加できる事業を推進 ○中心市街地における、行政と協働したボランティア事業の創設、実施 ○西口再開発ビル内他施設との連携、協働事業の創設、実施
	2 西口再開発ビルを活用したボランティア事業の推進	
	3 中心市街地におけるボランティア事業の推進	

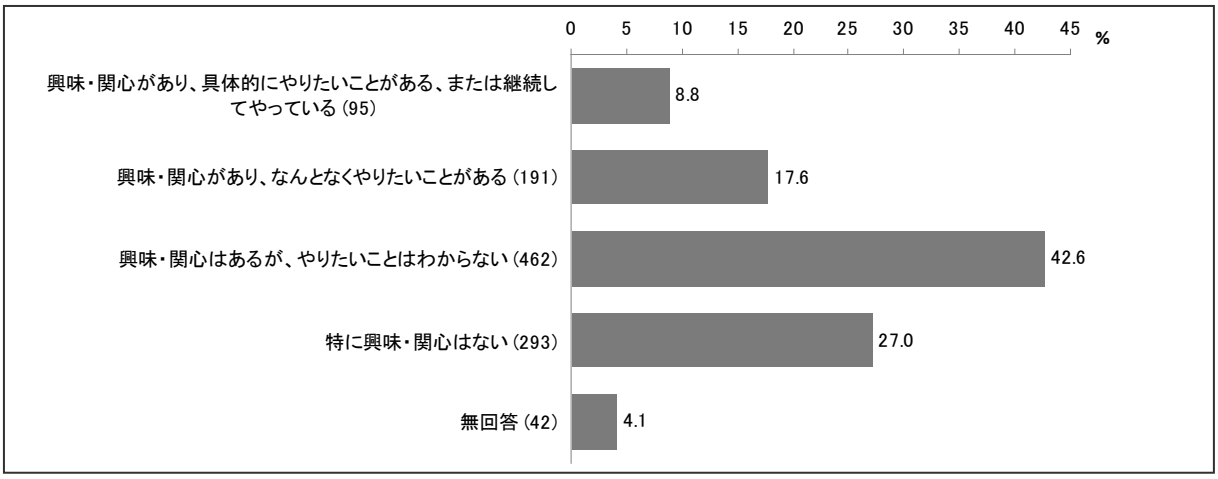
Ⅳ. 資料

■ボランティアに対する市民の意識

平成24年度福井市民意識調査によると、市民のボランティアに対する興味や関心は高いことが伺えますが、その思いが実際の活動に繋がっている割合はそれほど高くない傾向が読み取れます。

その一つの原因として、ボランティアに興味や関心はあるが、やりたいことがわからないということが挙げられます。

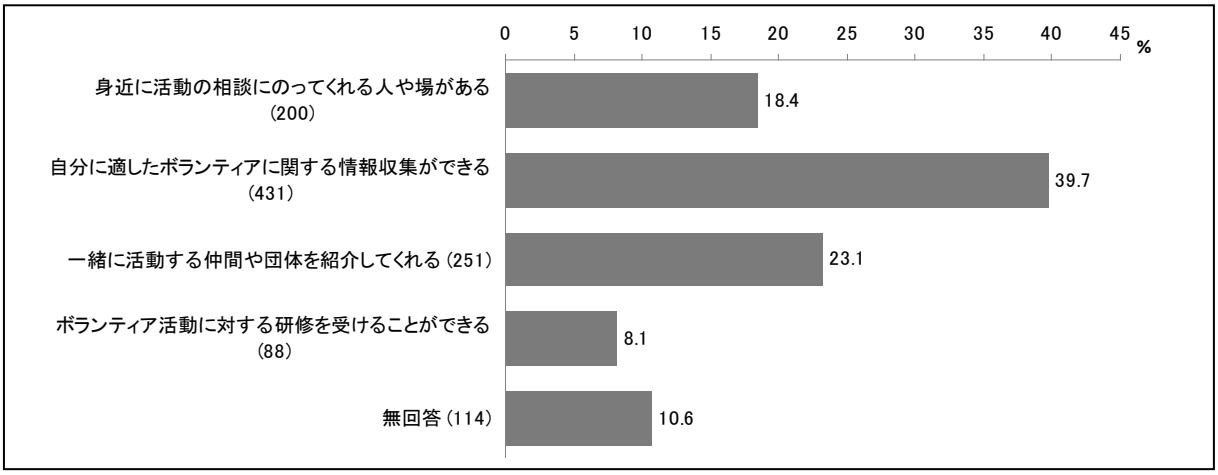
Q　あなたは、ボランティア活動への参加に興味や関心がありますか。



支援のあり方については、「自分に適したボランティアに関する情報収集できること」が最も多く、次に「一緒に活動する仲間や団体を紹介してくれる」、「身近に活動の相談にのってくれる人や場がある」が続いています。

これらの支援により、ボランティアに対する興味関心だけで終っていた人が、実際のボランティア活動に繋がっていく可能性があるといえます。また、既に活動している人にとってもこれらの支援により活動の幅が広がることが期待されます。

Q　ボランティア活動が盛んになるためには、どのような支援が必要だと思いますか。



（平成24年度福井市民意識調査）